



詩篇第五卷
詩篇135-150篇

2012.8.16

<p>おわり⑦ あらゆるいほは</p> <p>主の恵みはとこしえまで'</p> <p>P.96 第2カ (1節16)</p> <p>(学先) (7) P.33, P.18 申32:3 申32:4</p> <p>145 144</p> <p>御毛 幸い又 新い歌</p> <p>(30歳迄歌え H7623) 主は御方のみ H1987</p> <p>147 146</p> <p>(30歳迄歌え) 御毛 幸い又</p> <p>149 148</p> <p>御毛 新い歌 御毛 主は御方のみ</p> <p>ヤコブ、イスラエル シオン、エルサレム</p> <p>150</p> <p>ハレルヤ</p> <p>主は御方のみ</p> <p>・ 感謝 ・ 賛美</p>	<p>主は良い</p> <p>主はとこにいる。和恵。道</p> <p>139</p> <p>141 140</p> <p>143 142</p> <p>御毛 幸い又</p> <p>正者が御方におられる。信仰に子ども</p> <p>主は民とともにいる。(金) 主はあらゆる人を救う。(王)</p>	<p>おひき①</p> <p>主の恵みはとこしえまで'</p> <p>輪記 P.107, 118 申32:3 P.113-118</p> <p>136 135</p> <p>御毛 幸い又</p> <p>主は御方のみ H1984</p> <p>和恵地 御毛 和恵地</p> <p>138 137</p> <p>御毛 幸い又</p> <p>御毛 幸い又 2巻6:36 押田 (10モシヨ祈り) ネハミヤ(2:4) あらゆるいほは</p> <p>・ 賛美 ・ 感謝</p>
---	---	---

新い歌. 33:3, 40:3, 96:1, 98:1, 144:9, 149:1 177:42:10. Rev 5:9, 14:3

詩篇第5卷、第4集、135篇から150篇。ここを6段落に分けています。

「ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことに良い。いつくしみ深いというのはトブです。その恵みはとこしえまで。ハレルヤ。」という第1歴代誌のダビデが歌わせた歌。ソロモンが神殿を捧げた時に歌った歌。そのハレルヤのフルコーラスみたいなもの。その言い方で全体が構成されている。

第5巻自体がそれで構成されているということを見ていましたね。107から118が主に感謝せよ。119篇が主は良い。都上りの歌が恵みはとこしえまで。そして、またここがハレルヤという135から150です。

その中でも135から138が恵みはとこしえまで。139が主は良い。140から143までで戦いがあります。144から150がハレルヤ。これが、最初の恵み、出エジプトのようなものです。次に主は良い、御霊が与えられること。それで40年間の40日間の戦いが140から143。144から最後の勝利ということで、恵み、トブ、戦い、恵みの1、3、40、7の構成になっているでしょう。

詩乃巻4集. 135-150

2012.8.16

107-118. ① 過越. - 135-150 ⑦ 仮庵.

出エシテ. 1巻. S'ET. 申命記 2巻. VDEN.

135-138 ①, 139 ③, 140-143 ⑩, 144-150 ⑦

はじめの恵みは 良い 軽い 末の恵みは
とこしえ とこしえ

135. 136 申命記時代 - 144. 145 輪記32: 岩. 御名の栄光
約束の地に入る 32:4 32:3 1巻16/Ps96

137. 138 シン. イハルム - 146 - 149 シン. イハルム.

107から118はどちらかというとな過越的なハレルヤ、135からのところは最後の完成、約束の地に入っていくところの仮庵の祭りのハレルヤという違いがあると思います。

135と136、144と145。これは、135から136は申命記の創造から約束の地に入るまでの話。144と145は特に申命記32章の主は岩であるということと御名の栄光を賛美しなさいというのが32章のモーセの歌の出だしの重要なところ。

そのことは第1歴代誌16章でも言われている。96篇にあるように「力と栄光を主に帰せよ」というのが144と145。これは、幸いダブルで145が御恵みというようになっていきます。

137. 138 シン. イハルム - 146 - 149 シン. イハルム.

145 → 96 (1巻16) → 105. 106 (エサテ. 流野) ハルム → 103. 104 主は祝福の地. → 107 -

135. 136 / 146 - 149 主は祝福の地. ハルム. 137. 138 / 144. 145 力と栄光に感謝.
賛美せよ.

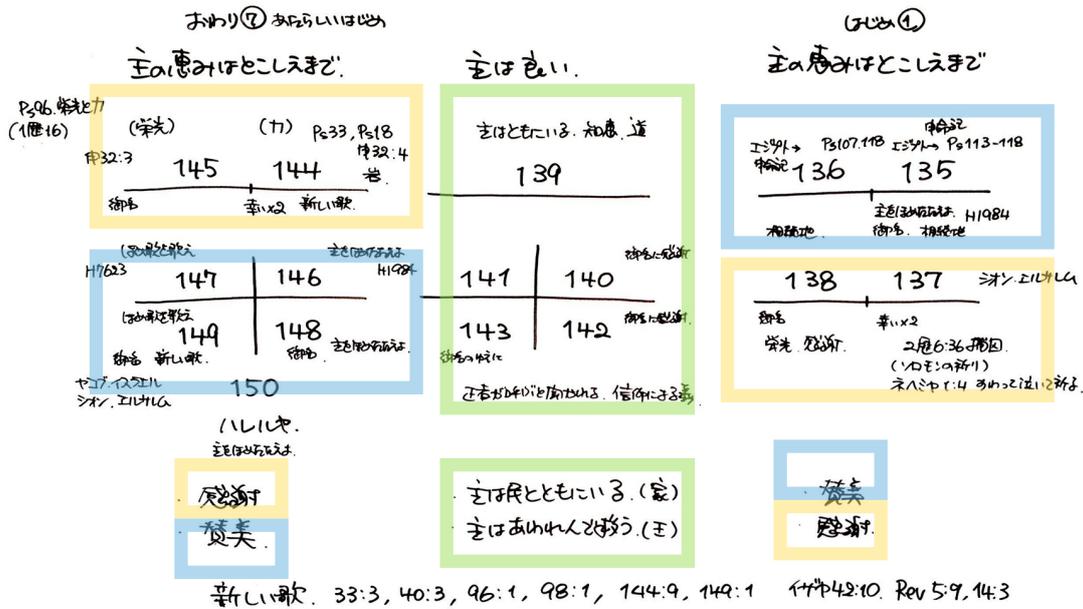
137. (107) 若し主の中での叫びと主の恵み. 主の恵みに感謝せよ
主の歌 (感謝の歌. 恵みの歌)

17112:28 感謝 13:15 賛美
Ps 100. 感謝して. 賛美して.

Ps 107-112 感謝. 113-118 賛美?

137と138、144と145のつながりが、137と144は幸いダブルで終わっている詩篇。御名の栄光をほめ歌うという138と145。この2つがつながりがあるでしょうということが下から2番目のところに書いてある「力と栄光に感謝しなさい」ということです。135、136と146からは主の名を褒め称えなさいということがずっと強調されていて、恵みはとこしえまでということを賛美する「ハレルヤ」というのが出だしです。

2012.8.16



ですから、賛美すること、感謝すること、感謝すること、賛美することというのが、135から138、144から150までのところが賛美と感謝、感謝と賛美というように感謝しつつ主の門に、賛美しつつ主の大庭に入れ」と言われている詩篇100篇や、ヘブル人への手紙でも言われているところですけど、神様の家に住むその目的は、感謝して賛美することであるということが、その構造上も言われているでしょう。

その家に住む神様の御恵みに満たされることの中心は、主が共にいること、主が隣れんで私たちが救ってくださること、義と認めて御霊を与えてくださること、これが主は良いということであるというのが、139から143までで言われていることです。

144と149に新しい歌を歌えという言い方が出てきますし、137のところは特徴がありますけれど、ソロモンの神殿を捧げる時の祈り、ネヘミヤの1章の泣いて祈ることを見ると、申命記の地の果てまで囚われていても連れ帰りますということを137篇で歌っていますよね。その歌自体は主の歌、感謝の歌、主が良くしてくださったことを決して忘れないという歌である。それが107篇でも言われている苦しみの中で叫ぶならばその奇しいわざに感謝しなさい、みわざに感謝しなさいということを137篇で言っているという意味で137篇は特徴がありますけれど、そこは感謝の歌である。感謝の歌を絶対に忘れませんという歌であるということが言えます。

137から、146からのところは、シオンとエルサレムというのが出てきます。シオン、エルサレムのつながり。135から、144からは約束の地に入るという申命記的なところ。137から146からのところはダビデの契約の約束の地に入るというような区別もできると思います。